

厚沢部町と北海道ガス株式会社との 連携と協力に関する包括協定について



2022年6月2日

1. 厚沢部町の概要

■町の特徴

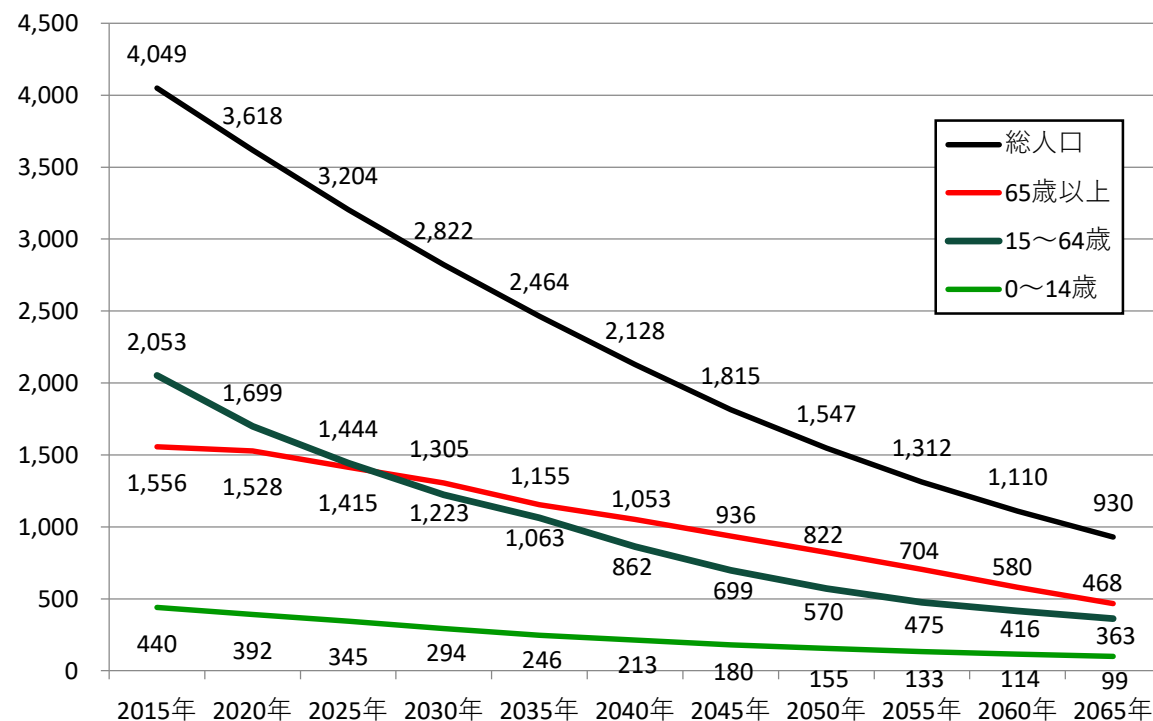
- ・人口 : 3,547人 (2022年4月末)
 - ・世帯数 : 1,832世帯 (同上)
 - ・面積 : 460.58km²
 - ・主な産業 : 農林業
-
- ・面積の8割が山林
 - ・ヒバの北限、トドマツの南限
 - ・メークイン発祥の地
 - ・素敵な過疎のまち



おらいもファミリー

2. 厚沢部町の現状

1. 人口推計



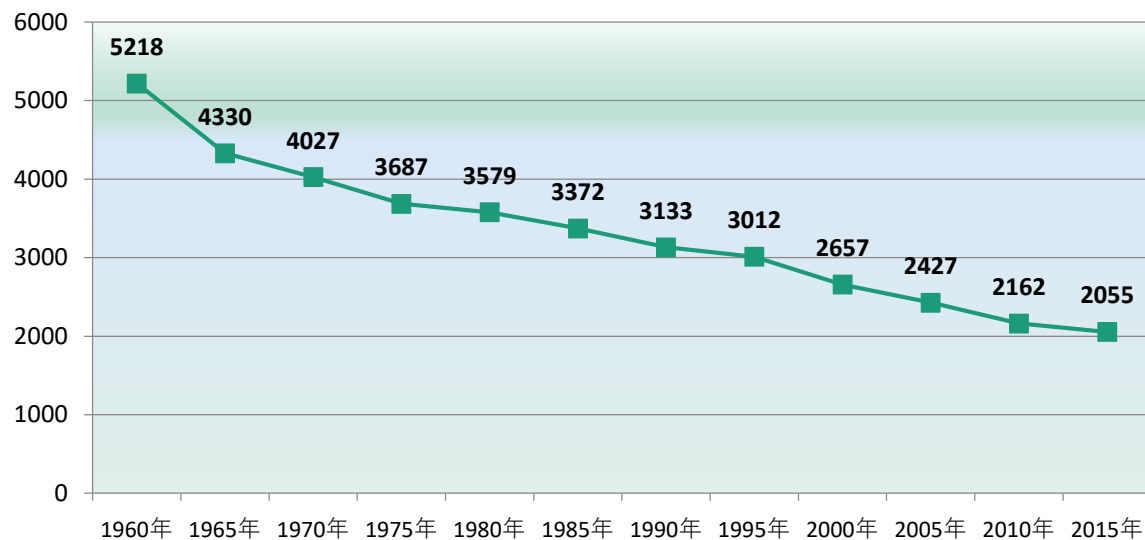
1960年代には町の人口は
10,000人を超えていた
現在は3,500人台に

図表 厚沢部町の将来人口推計（社会人口問題研究所）

2. 厚沢部町の現状

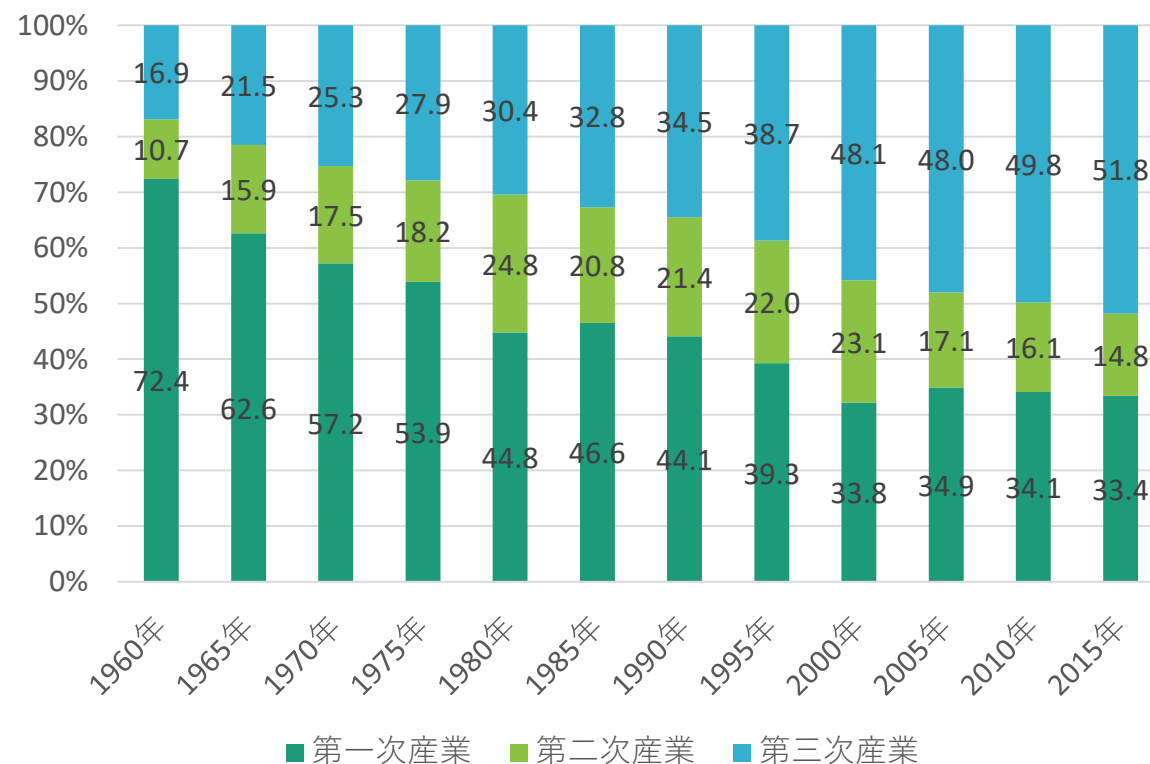
2. 就業者数の推移と就業人口割合（国勢調査値）

就業者数の推移（人）



第一次産業（基幹産業）における就業者数（担い手）減少 ⇒ 基幹産業の衰退

産業別就業人口の割合（％）



3. 厚沢部町としてのスローガン

厚沢部町の基本構想

令和3年3月 第6次厚沢部町総合計画策定

- ・町民が主役となってまちづくりに参画し、行政や関係機関とともに、今よりも発展・魅力的な厚沢部町とするために考動する

『好きな』まちに『て』を加え素敵なまちに
～町民が主役となって進める素敵な過疎のまちづくり～

『まちづくりを推進する3つの基本方針』

- (1) 当町に住む人同士の学びと交流の促進
- (2) 当町と他地域や世界との交流と経済の発展
- (3) 将来の町を築くための人の成長と環境の保護

4. 厚沢部町の主要課題と目指すべき方向性

- 少子高齢化による人口減少
- 雇用就業機会の確保
- 安心して暮らせる安全で快適な町

方向性 1

稼ぐ地域・
安定して働
ける環境を
実現

方向性 2

関係人口の
創出・拡大、
移住希望を
実現

方向性 3

結婚・出産
・子育ての
希望を実現

方向性 4

生涯安心し
て暮らせる
素敵な過疎
のまちを
実現

5. 厚沢部町の現在の取り組み

目標 1 ～稼ぐしごとをつくり、安定して働けるようにする

■新規就農者への支援

〔地域おこし協力隊制度活用、農業IoT導入支援等



■農産物ブランド化推進

〔あっさぶメーカーイン地域商標化登録に向けた取組等

■農林業労働力確保に向けた取組支援

〔外国人農業実習生・農作業アルバイト（ゼロ円免許合宿）等



5. 厚沢部町の現在の取り組み

目標 2 ～関係人口の拡大を図り、厚沢部町へ新しい人の流れをつくる

■都市部等から町への移住促進

〔移住体験住宅利用促進、移住・交流コンシェルジュ業務実施〕

■都市部等から親子でのワーケーション

〔保育園留学（こども園＋テレワーク＋収穫体験等）〕

■大学アウトキャンパスの誘致

〔中部学院短期大学、愛知学院大学、奈良教育大学〕



5. 厚沢部町の現在の取り組み

目標 3 ～結婚・出産・子育ての希望をかなえる

■子育て世代への経済的負担軽減

〔保育料無償化（3歳以上児）〕

■子育て世代への住宅支援

〔持家建設奨励金の支給（子ども加算あり）〕

■学習支援・人材育成・ふるさと教育の充実

〔厚沢部町公営塾開設、地域魅力化プロジェクト実施〕



5. 厚沢部町の現在の取り組み

目標4～ひとが集い、全世代が安心して暮らせる素敵な過疎のまちをつくる

■地域包括ケアシステムの充実

〔IoT見守りロボットの導入、ふれあいサロンの開設等〕

■公共交通の充実

〔市町村運営有償運送の実施、地域公共交通計画の策定〕

■SDGsの推進

〔チップボイラーの導入、太陽光・小水力等再生可能エネルギーの活用促進〕



6. 連携協定の目的



水力、太陽光などのエネルギー地産地消を促進し
地域が直面する課題に対応することで
基幹産業である農業振興を基軸に町の活性化を進め
次代へつなぐ活力のある産業のまちづくり
安全・安心・快適なまちづくりを目指す

7. 連携協定の取り組み

1. 鶉ダムを活用した小水力発電の開発、活用

Pick up 1

2. 町遊休地を活用した太陽光発電の開発、活用

Pick up 2

3. 地産地消を実現する地域新電力会社の設立、運営

Pick up 3

4. 未利用エネルギー活用による地域産業の振興

7. 連携協定の取り組み

1. 鶉ダムを活用した小水力発電の開発、活用

用途・・・農業用ダム

総貯水量・・・10,000千 m^3

◎再エネ100%による農作物付加価値向上

◎ハウスへのエネルギー供給による冬期間の農業活性化



7. 連携協定の取り組み

2. 町遊休地を活用した太陽光発電の開発、活用

廃校跡地、町有地等への太陽光発電設置と活用

◎公共施設・一般家庭等への電力供給

◎再生可能エネルギーの地産地消と低・脱炭素化を図る

<設置箇所イメージ>

廃校跡地



町有地



7. 連携協定の取り組み

3. 地産地消を実現する地域新電力会社の設立、運営

地域内での経済循環を目指す

- ◎地元企業等による新会社を設立
- ◎再生可能エネルギーの地産地消
- ◎低・脱炭素化の実現



8. 厚沢部町の取り組み将来像

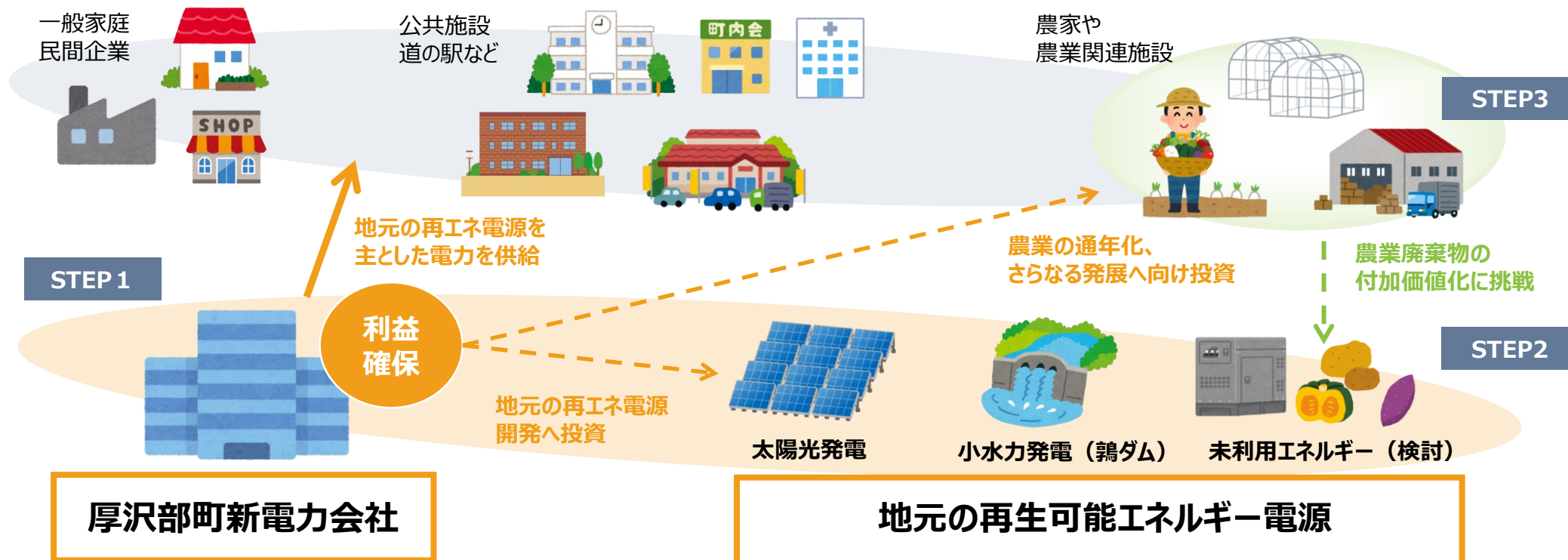
小水力、太陽光
などのエネルギー
地産地消を促進

地域課題
に対応

農業振興を基軸に
町の活性化を図る

次代へつなぐ活力のある産業の
まちづくり

安全・安心・快適なまちづくり



STEP 1

- ・太陽光発電設備の設置、鶉ダムによる小水力発電開発
- ・新電力会社の設立

STEP 2

- 新規再エネ開発
（未利用エネルギー検討）

STEP 3

- 農業分野への拡大